

春日部福音自由教会 2020年7月5日 11:00 同時配信礼拝(ライブ配信礼拝)

聖書 新約聖書 マルコの福音書 8章 1節～10節

説教 「感謝と賛美をささげる」 小野信一牧師

I. 一つの区切り

おはようございます。

7月5日の主の日の日曜日、3会堂の礼拝を再開いたしました。待ちに待った日であるということが出来るでしょう。今日お互いの顔を見ることのできる喜びがあります。しかし心配もなくなってはいないわけですね。もう心配なくなったと言えるわけではありません。4月19日から「教会に来ないでください」という異常なお願いをしてきました。しかしそれに一つの区切りをつける時が来ました。教会においでください、礼拝堂にどうぞ来てください、と改めてお伝えして今日の日を迎えたのです。今日久しぶりにここでお互いの顔を見ることのできる方たちがいます。それぞれ一人一人よくお出でになりました。よく来てくださいました。一人一人を歓迎し感謝したいと思います。また今日もなお家にとどまって礼拝をされている方たちがいらっしゃると思います。無理をしないようにしてくださいというお願いもしていますから、そちらもまたよくとどまってくださいました、と申し上げたいと思います。集まるにあたっては金曜日にメールでお送りし今日の週報に掲載をしましたように、基本的な感染対策を定めています。それを行なうことをできる限り徹底してする。それをし続けながら顔を合わせて会う。一緒に集う。会っても、互いの手と手で触れないようにするとかですね。会ってもウイルスの受け渡しをしないようにする、そのように進めていきたいと思います。

今日はマルコの福音書8章1節から10節までが開かれています。このみことばによってみことばを取り次がせていただきます。『感謝と賛美をささげる』と題してみ言葉を取り次がせていただきます。もう一度共にお祈りを捧げましょう。

《天の父なる神様。日曜日の朝この中央会堂で、そして丘の上記念会堂で、そして庄和会堂で三つの礼拝堂で久しぶりに礼拝を捧げております。家にとどまっていた方たちの中で今日久しぶりに礼拝堂に集った方たちがおられます。行く道帰る道を守ってください。そして礼拝堂にいる間お互いが、お互いに悪いものやウイルスを受け渡すことがないように守ってください。そしてお互いがお互いから良いものを受け与え、良いものを分け合うことができるようにどうぞ導いてください。今この中央の礼拝においてもみ言葉が開かれました。み言葉によってお語りください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。》

II. 一人一人を見て、迎えるイエス様

8章の初めに「その頃再び」と書いてあります。今日の礼拝の再会にふさわしい言葉かもしれません。再び、そして大勢の群衆が集まっていた。今日は先週までと比べれば多くの人が集ま

っています。前に比べればまだ少ないかもしれませんが。けれども久しぶりに来られた方たちがいます。イエス様がその人たちをご覧になりました。多くの人々がやってきた。何を見たか？まずはじめに書いてあることは「食べるものがなかった」「何か食べるものを持っていない」それを見たのです。そしてイエス様は「かわいそうに」「わたしはかわいそうに思う」「心が、胸が、揺り動かされる」と言われました。「この人たちはもう、すでに三日間わたしと一緒にいる、食べるものを持っていない、空腹だ、このまま帰したら動けなくなるだろう、途中で動けなくなります」と書いてありますけれども直訳的に言えば「道で倒れるだろう」あるいは「道で気を失う」というようなことです。そしてさらにイエス様言われました。「この人たちの中には遠くから来ている人もいます」。大勢の群衆がいたのですけれどもイエス様はその個別の状況もまたご覧になります。ある人たちは遠くから来ている、ある人たちは近くから来ている。

一人一人、今日私たちもこの中央会堂に集って一緒に礼拝を捧げています。そして今も家で礼拝を捧げている人たちもいます。一人ひとりの状況・個別の状況・状態もイエス様は見ておられます。今日もです。見ていてくださる。それぞれがどんな距離からやってきたか、どういう交通手段で来るのか、どんな心の思いで来たのか、どんな希望を抱いて今日どんな期待を持ってきたか、またどんな心配を抱えてきているか、イエス様は群れとして迎えると同時に一人一人を見て一人一人を迎えてくださっています。

Ⅲ. わずかなものを感謝する①

「かわいそうに思う、わたしの胸は震える、食べるものを持っていないからだ。このまま帰らせたら道で倒れてしまうだろう」イエス様が言います。そしたら弟子たちは何て言ったでしょうか。「どこからパンを手に入れるんですか。こんな場所で人里離れています。一体どうやって十分食べさせることができるでしょうか」。弟子たちは言いました。するとイエス様はお尋ねになります。「パンはいくつありますか」。あの、いつか聞いた質問だなんて思い出すでしょうかね。いつかこういう話があったな。「パンはいくつありますか」って前にもイエス様同じことを尋ねてました。イエス様は時々同じ質問をされます。同じことを言われることがあります。これもそのひとつですね。彼らは答えます。「7つです」。前の時とはちょっと違いますね。前は「5つです」でした。今は7つ。ちょっと増えました。この数字は一体どういう意味があるのかっていうのですね、色々面白い解釈をしたという時もありますけれども、まあそういうこの数字には、何でしょうね、例えばあの、5はモーセ五書の5で旧約聖書だとか、7は完全数だとか。最初の方は、あのちょっと先ですけど12のかごで12部族を表してるんだとか。7は新約聖書の7つのともしび、7つの教会だとかというような解釈をしたこともあったようですが、そういうふうに解釈しなくてもいいかなと思います。例えば私はあの、この5つが7つになったっていうので幼稚園の子供たちの数を思い出したんですけど、最初5

人だったのが7人に増えたみたいな、この大変な中だけど増えてよかったねって言う、まあでも別にそれに当てはめなきゃいけないわけではありません。それはそれとしてとにかくイエス様は、続き見ますと座るように命じて7つのパンを取り、感謝の祈りを捧げ、裂いて配るように弟子たちにお与えになったと書いてあります。給食の奇跡、パンの奇跡が2度あったのです。最初は5000人。5つのパンでした。今回は4000人7つのパンがありました。聖餐式とも繋がってるところがあります。イエス様がパンを取って祝福して祝福の祈りをしてそして分け与えた。「さあ食べなさい」と。聖餐式の恵みとも繋がるところがあります。今日は聖餐式も再開する目標と1ヶ月前には考えていましたが、聖餐式はもう少し待つことにして8月に再開する目標と修正することにしました。その先見ますと7節では「小魚が少しあった」という風で書いてあります。それについて神をほめたたえてから賛美し祝福してからこれも配るように言われた。イエス様は一つ一つのゆえに感謝をし賛美を捧げています。そうありたいな、とここを読んで思いました。私たちも小さなもの・わずかなもののゆえに感謝を捧げ賛美を捧げる。これはまたあとで触れたいと思います。

IV. 届ける人の仲間に加わる

8節、「群衆は食べて満腹した、そしてあまりのパン切れを取り集めると7つのかごになった」と書いてあります。最初のパンの奇跡の時は12のかごでしたね。今日の奇跡は7つのかごって書いてあるんですけど、まああの細かいところを見ると大かごと言った方がいいかもしれません。おそらく最初の6章の時のかごよりも大きなかごじゃないかっていうことらしいです。よくは分かりません。で人数が4000人がいたと書いてあります。これはだいたい大人の男性を数えて4000人だった、女性もその他にいて子供たちもいたであろうということです。ですからまあ8000人とかそれぐらいの人たちがいたのです。10節を見ると「すぐに弟子たちと船に乗りダルマヌタ地方に行かれた、再び旅を続けて行かれた」と書いてあります。イエス様はこの7章のところから8章にかけてですね異邦人の地域を旅していましたので、今回のパンの奇跡は前の奇跡がユダヤ人の同胞の人達へのパンを与える奇跡だったのに対して、今度は異邦人に対するものだったんじゃないかという風にも言われます。今日の箇所は再びのパンの奇跡です。思い出すみ言葉があります6章の最初のパンの奇跡です。今日のみ言葉は4000人の給食、6章は5000人の給食です。振り返りますと、このマルコの6章のみ言葉はですね、ちょうど2020年の年が明けて1月5日と1月12日の礼拝で説教を致しました。「あなたがたがあげなさい」と主イエス様が言われたみ言葉でした。6章の37節ですね。イエス様は群衆を座らせるように命じて弟子たちにパンを配る係りをお任せになった。その御言葉を元旦礼拝で開かれた2020年のみ言葉とともに聞いたのです。1月5日そして1月12日の中央の礼拝、それからもう6ヶ月が経ちました。あなたがたが触れなさい 地の塩として。あなたがたが照らしなさい、世の光として。あなたがたがあげなさい、命のパンを配

る係りとして。そういうみ言葉を1月に聞いたのです。それから6ヶ月が経って今日もう一度このマルコの8章のみ言葉に来ています。その時こんなことを私は話しました。弟子たちは配っている間に食べたのだろうか、いや食べなかったのではないか、しかし多く残った、それを集めた。だから弟子自身も十分食べることができたのであった、主の恵みを人に配るために働く人にはその人自身に十分に恵みが与えられる。これが1月に語られたことでした。この3か月4月5月6月、神様の恵みを、礼拝を捧げる恵みを届けるために、みことばを聞く恵みを届けるために、懸命に働いた人たちがいました。ちょうど4月5日が復活祭の前の週、受難週の日曜日でその時に同時配信のテストを第1回したんですね。それから4月5月6月。今日は7月の5日です。ちょうど3ヶ月が経ったのです。その間3ヶ月の間ここにいたのはわずかな人たちでした。なるべく皆教会に来ないようにしました。「教会に来ないでください」という異常なお願いをしたのです。その中でわずかな数名の人達が「届けるために」「配るために」労しました。その人たちの労に感謝したいと思います。主からの恵みが配った人たちにもあると私たちは信じています。そしてこれからはできるならばより多くの人達で少しずつともに担い合っていきたいと思えます。神様の恵みはいつでも無限にあります。主の愛も主が増やしてくださる命のパンも無限です。ですから、何人で配ろうとも全ての人に届く分だけあるのです。でも12人で配るより70人で配る方が、そして120人で3000人でという風に弟子たちが増えていったように、多くの人で配る方がより多くの人に届いていくということはあるのでしょうか。大人数小人数によらず主にはおできになります。しかしこれからより多くの人を共に担い合う恵みに招き入れていきたいと願っています。皆さんにも加わっていただきたいということです。届ける人の仲間に加わっていただきたいということです。

V. 常識を書き換える

今日のパンの奇跡は2度目の奇跡です。同じような出来事同じような経験を重ねてすることで、重ねてさせることで、神が人間に気づかせようとされることはなんだろうか、そんなことも考えさせられます。私たち時々人生の中で同じような経験をして一度では分からなかったことが2度目に気づいたり、2度経験してもまだわからなかったりということがあのように思えます。ちょっと二つのパンの奇跡の共通点そして違いをですね、確認していければという風に思えます。前の奇跡の時に聞いた言葉がここにいくつか出てきています。もうこんな時間が経っている、寂しいところにいる、何か食べるものがない。そして弟子たちに与えた「弟子たちが配るように」という言葉は共通しています。かごが出てきます。パンがあります。魚があります。ほめたたえてということ、感謝して裂き分ける。違いは何でしょうか。6章のところ「パンはいくつありますか」と38節でイエス様が言われた。その質問は同じでしたけどその時は「行って見て来なさい」というのはありましたね。「ほめたたえて」というのは共通ですが、今日のところでは感謝の祈りをささげてからパンを裂き、そして魚の時にほめたた

えた、という風に書いてあります。そして魚はですねえ、これは同じ《魚》って言葉に《小さい》っていう印がついた。小魚とかですね、小さい魚、ちょっと違うんですね、しかもわずかの小魚「小魚が少しあったので」っていう風に書いてあります。かごは大かごだったんですね。そんな共通点があり、違いがあるようにに思います。イエス様が今日のところで「かわいそうに」と言われた、これは6章ではパンの奇跡が起こるすぐ前、34節に『大勢の群衆をご覧になり羊飼いのいない羊の群れのようにであった、イエスは彼らを深くあわれんだ』と書いてある、その深くあわれんだというのがいわゆるはらわたが揺れ動かされるって言う言葉なんですけど、8章では同じ言葉を『かわいそうに思う』～かわいそうに～という風に訳している、そこもまた共通になっています。イエス様言われました。「わたしはかわいそうに思う、わたしの胸は揺れ動く、すでに3日。常に一定の時間わたしについてきた人たちだ、わたしと一緒にいる人たちだ」。つまりイエス様についてきた群衆なのです。でも持っていないのです。パンを、食べるものを、その人を満たすものを。空腹で帰らせることはできない、満腹して帰らせようとイエス様は言われました。弟子たちは先ほど見たように「どこからですか」と言います。前の時は「あげなさい」と言われて、「私たちがですか」って言いましたよね。「どこからですか」「どうやってどうしろというのですか」「また無理なことを仰っています」というような彼らの気持ちが見えるようです。前に一度もうパンの奇跡を経験しています。イエス様の求めは無理な要求ではなかったんだということを一度経験している、なのにまた「どこからですか」「また無理なことを」と言ってしまう。弟子たちにとっても自分の常識を書き換えるのは簡単ではありませんでした。人にはできないことを神にはできる、という新しい常識に、自分の中で書き換えていくのには時間がかかります。12人もすぐには悟りませんでした。この後に「まだわからないのか、まだ悟らないのか」と言われるんですね。12人でさえそうでした。私たちはなおさらでしょう。書き換えていくことが必要なのです。常識を書き換える、世界観を入れ替える必要があるのです。常識を書き直すのには時間がかかります。パンの奇跡を見て何度もそのことを読み返し聞き続けていくときに「神にはおできになる」ということを信じる、それを前提それを常識とするという風に私たちは心の常識を書き換えていきます。しかし簡単にはいかないのです。「神は無力だ」とか、あるいは「神様は全能なんだけど何もしてくれない」「神は何もしてくれないんだ」という風に人間が思ってしまふ、思い込んでしまふ、ということがあります。神様は関心を持って心を向けてくださる。かわいそうに思うと言ってくださる。心を動かしていてくださる。一人一人の状況を見て「ああ空腹なんだな」「今心配なんだな」「不安なんだな」「今苦しいところにいるんだな」イエス様が「わたしのはらわたは揺れ動く」「かわいそうに」と言ってくださる。ですが私たち人間の常識は「神様はどうせ無関心なんだ」「私のことなんか困っていても何とも思ってくれないんだ」というふうに思ってしまふことがあるのです。このパンの奇跡を見ていきますと神様は用いてくださるということが分かる、少ないものでも小さいわずかなものでも用いてくださると分か

る。でも「我々の持つものでは全然足りない」という思いになったり「私たちは少なすぎる」「私たちは無力すぎる」「到底無理だ」というふうに思う。「どこからですか」「私たちがですか」「どうしろと言うのですか」。神が満たし、余るほど与えてくださる、ということをもだなかなか信じることができないのです。そういう中で私たちも自分の中にある常識を書き直していく、書き換えていくことが必要です。それには一つ一つの生活の中・人生の中での経験・実体験の中で、そして一つ一つのみ言葉との出会いの中で「ああ本当にそうなんだな」ということ、自分の人生の中で、仲間の人生の中で「ああ本当にこういうことがあったんだ」という経験を重ねていくことでしょう。

VI. わずかなものを感謝する②

さてここからイエス様から学ぶこと・真似ることとして今日の説教題にした点について心を留めたいと思います。《今あるものについて感謝する、賛美をささげる》ということです。イエス様はわずかな小魚のゆえに、賛美を捧げました。私たちも今あるものについて感謝し、賛美を捧げます。今いる人たちのことを感謝し賛美します。パンは5つしかありません。7つしかありません。例えば幼稚園だったら園児は5人しかいません。7人しかいません、と思うかもしれない。魚はこれだけです。今度は小さい魚しかありません。しかもわずかです。と言いたくなる。しかし今あるものに対して「これしかない」とか「足りません」とか「不十分です」ということも出来るのですが、イエス様はどうしたかと言うと、今ある7つのパンのゆえに感謝をささげて、今ある小さなわずかな魚のゆえに賛美をささげています。私たちも今いる人たちのことを感謝し、今いる人たちのゆえに賛美をささげます。そして今ある使えるもの、この建物、スペースがあること、またいわゆる物ですね、機械とかパソコンとかカメラとか、また、YouTubeとかソフトウェア、またそれをつなぐ線、ケーブルとかマイクとかミキサーとかスピーカーとか、そういうものがあるんです。そういう一つ一つ今あるもののゆえに賛美をささげたいと思います。皆さんの生活の中にも「今これしかない」と思うかもしれません。でもそれだけある。そのゆえに感謝をささげる。「イエス様、今私の家にこれがあります、私の手の中にこれがあります、私が使えるものとしてこれがある、その故に神様、あなたを賛美します」。小さなものでも働くのです。神に用いられることがあります。例えば今、今日からカメラがこっちに移動して壁につけてもらいましたけど、ネジで止めてるんですよ。小さなネジが働いています。いろんなケーブル・線があるんですけど光回線を電柱から、光が来てそこからこうきてここまで来るためにいろんな線が繋がってます。例えばですね、小さな変換ケーブルとか変換アダプターというものがあるんですけど、形の違うものをつなぐためのちっちゃい部品っていうのはあるんですよ。本当にちっちゃいものですね。何百円で買えたりする。何千円もするものや何万円もするものもありますけど、ちっちゃなもので何百円のものがあるんですよ。それがあると音が出るとか録音ができるとか配信ができるとか、

YouTube で映像を送れるっていうことがあるんです。小さな部品一つがないと、しようとするのがうまく機能しなくなるって事があります。小さな部品とか材料とかケーブル・線とかそして大きな機械とかいろんなものが組み合わさって、私たちの生活が成り立っています。イエス様はわずかな小魚のゆえに、神をほめたたえてから配るように言われたのですね。主の力は無限です。主の手の中に入るならばそれは無限に用いられます。私たちも持っている小さなもの・わずかなものを主の手にささげていきましょう。イエス様の手にお渡ししてお任せしておいていただきましょう。また小さな私自身を自分自身が小さいと思った時にも立派な大きな魚でなくてもいいのです。小魚でもいいのですから「イエス様、私をあなたの手に委ねます」と言えれば良いのです。イエス様は弟子たちに人々を座らせて「あなたがたが配りなさい」と言ってパンを裂いて渡し、小魚を増やして渡してくださいました。私たちにも配るべきパンがあります。今日は聖餐式をできませんけれども私たちの配るパンは何でしょう？私たちがいただくパンは何でしょう？もう一度そのことを思い起こしておきたいと思います。今日のみ言葉と似た場面ですね。ヨハネの福音書の中に6章にパンの奇跡があります。そこでイエス様は言われました。「わたしが命のパンです」。パンとは、命のパンとは、イエス様ご自身なのです。私たちが受けるべき、そして渡すべき配るべき命のパンはイエス様ご自身です。私たちはウイルスを受け取らないように手で触れて自分の中に入れないように気をつけています。人に渡さないように気をつけてます。でも私たちには渡すべきもの、受けて渡すべきものがあります。それは命のパンです。命の言葉です。そしてイエス様ご自身です。「わたしが命のパンだ、わたしを受け、わたしを食べなさい」とイエス様が言われます。「わたしが命のパンである。わたしを食べ、この命のパンを人々に配りなさい。このパンを受けた者がこのパンを食べるのだ。そして配るのだ。行きなさい。あなたがたが配りなさい」。「イエス様これしかありません」「ちょっとしかありません」と言ってはならない。「わたしがあなたがたの内にいる。わたしがいる。命のパンであるわたしを受け、わたしを皆と分け合いなさい」イエス様が言われます。聖餐式を行なうのに安心してパンとぶどう液をいただくことのできる日をなお待つことにした今日の礼拝です。しかし今日この礼拝で食べるパンはありません。飲むぶどう液はありませんが、しかし聖書のみ言葉を私たちが耳と心を開いて聞くことによって「開け」と言ってくださるイエス様の声を聞いて、心を開いてみ言葉をいただくことによって、この命のパン、イエス様ご自身を頂いて帰りましょう。今日お腹をすかしてきた人がいるかもしれません。心の空腹、霊の空腹を感じてきたかもしれません。空腹のまま来たならば空腹のまま帰ってはなりません。イエス様が腹を満たして心を満たしてから帰らせたいと強く思っていてくださいます。「わたしについてここまで一緒に来たこの人たちを、今日まで一緒にいたこの人達を、わたしは空腹のまま帰らせない」とイエス様が言われます。イエス様が、今日はパンはありませんけど、イエス様が「わたしを受けなさい」とイエス様ご自身の身体を裂いて私たちに与えていてくださいます。み言葉を頂いてイエス様ご自身・イエス様の命を頂いて帰りましょ

う。「さあ皆食べなさい」イエス様が言われます。「あなたがたが配りなさい」イエス様が言われます。この命のパンをここで分け合い、そして配るために私たちはここから立って行きます。聖餐を受ける日を待ち望みつつ、今日、み言葉によって心満たされ喜んで帰ることができますように。イエス様が苦しんでいる人には「かわいそうに。わたしがあなたのことを知っている。あなたの苦しい心を、全てを見ている」と言ってくださる。イエス様がされたように私たちは小さなものを感謝します。今日皆さん何を感謝したいでしょうか。わずかな小さいもののゆえに、神に賛美をささげます。いつでも感謝できるのです。いつでも賛美できます。いわゆるビッグデーっていうか大いなる日と言うか「今日はすごいいいことがあった」「大きなことがあった」という日に感謝する、賛美するってだけではなくて「普通の日」に、「なんでもない日」に賛美することができます。また「苦しい日」にもです。「寂しい日」にも。「悲しみと涙の日」にも私たちは賛美します。いいことがあったからだけではありません。神への賛美は「最も苦しい日」に、「悲しい日」に賛美した先輩たちがいます。いつでも私たちは賛美します。そしていつでも休むことができます。青草の牧で。いつでも満ち足りていると言えます。「主がわが羊飼い」そう賛美できる。「イエス様、あなたが私の羊飼いです」そう賛美できる、だからどんな日も「満ち足りています」と言えるのです。

VII. 祈り

お祈りを捧げましょう。

今日は聖餐式がありませんけれども、聖餐式の時にするようにしばらく黙祷のうちに、一人一人が祈るときを持ちましょう。黙祷のうちに祈ります。

〔黙祷〕

天の父なる神様、今日から3会堂での礼拝を再開しました。今日来られた一人一人のゆえに感謝をささげます。賛美をささげます。今日できた小さなわずかなことのゆえにあなたを賛美します。今週出会う一人一人を感謝し、一人一人がすることができた一つ一つの小さなことのゆえにあなたをほめたたえて歩むことができますように。コロナウイルスの感染はまだまだ心配な状況です。主の守りがその中にありますように。私たちが顔を合わせ、出会い、また歌うときも、お互いがウイルスを持っていたとしても、お互いに渡してしまうことがないように、受け取ってしまうことがないようにどうぞお守りください。続けてお導きください。あなたご自身という命のパンを受け取り、分け合い、それを配ることができますように。神様が一人一人を見ていてくださる、関心を持っていてくださる、そして神様が小さなもの・わずかなものを用いてくださる、有り余るほど与えて満たしてくださると信じて歩めますように。今週一週間、あなたが共にいてください。どこにいる時もあなたと共に歩むことができますように。イエス・キリストのみ名によってお祈りしますアーメン。